

函館工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	社会人基礎力演習 I	
科目基礎情報							
科目番号	0186			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	社会基盤工学科			対象学年	4		
開設期	1st-Q			週時間数	2		
教科書/教材	必要に応じて適宜配布する。（1年次に使用したファイルは続けて使用する。）						
担当教員	泊 功,鳴海 雅哉,牧之内 友,松岡 由佳						
到達目標							
1.社会人基礎力を理解することができる。 2.進路志望に必要な書類の書き方を理解することができる。 3.面接の基本スタイルを理解することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	社会人基礎力を理解し、それを体得しようとする。			社会人基礎力を理解することができる。		社会人基礎力を理解することができない。	
評価項目2	進路志望に必要な書類の書き方を理解し、よりよいものを提出しようとする。			進路志望に必要な書類の書き方を理解することができる。		進路志望に必要な書類の書き方を理解することができない。	
評価項目3	面接の基本スタイルを理解し、よりよい面接ができるように練習できる。			面接の基本スタイルを理解することができる。		面接の基本スタイルを理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
函館高専教育目標 A 函館高専教育目標 D 函館高専教育目標 E							
教育方法等							
概要	本講義は、各学年で設定される「コミュニケーション科目」の一つで、みなさんが函館高専の学生として健全に成長することを目標としている。特に4年次では、これまでの内容を踏まえ、実際にインターンシップに参加するみなさんにとって実践的な事項、例えば「履歴書」などの諸書類の作成、社会人としてのマナー、面接作法などの対応支援をしていく。加えて、卒業までに「社会人基礎力」（職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力）を養成していく。						
授業の進め方・方法	グループ討議、発表、教員による講話						
注意点	※この科目は前期第1クオーターの科目である。従って、授業回数は全8回であり、2回の欠席で欠時数オーバー（不合格）となることを忘れないこと。 評価について、英語や数学などの一般教養科目と異なり、「知識を得た」ことを評価の対象としない。ワークショップや発表における姿勢やそのまとめとしてのレポート、および自己実現目標の設定とその自己評価でもって評価とする。前向きに取り組む姿勢であればあるほど、それに報いたいと考える（評価：その他）。 すでに述べたとおり、本講義には積極的に参加してもらいたい。従って、授業中に本講義と関係の無い取り組みをしていたり、不要の物を操作していたりした場合は、「意欲無し」と見なし、相応の減点措置となることを覚悟されたい。加えて、そのような姿勢であれば、将来に向けて必ずや失点となるであろうことを指摘しておく。 JABEE教育到達目標評価：課題80%（D-3：50%、E-2：50%）、発表10%（A-2：50%、E-1：50%）、ポートフォリオ10%（D-3：50%、E-2：50%） ※この科目は留学生は受講しない。 ※事実上課題のみで評価をする科目なので、最終成績で不合格時に再試験相当の配慮はしない。不合格を確定する。 ※成績は自分で計算できるようにしている。課題提出の有無は各自で覚えておくこと。課題未提出回数の問い合わせは拒否する。 ※課題が未記名であったり、不備が認められる場合は採点をしない（0点となる）。問いの指示に従っていない場合も採点をしない、または減点とする。また、字が乱雑であると認められる場合は減点か不正解扱いとする。 ※提出課題が不備であったり、取り組み不足が感じられたりする場合は減点または0点とする。 ※課題未提出については配慮しない。後日提出を受理したとしても、合格点となることを保証しない。 ※欠席（普通欠席、特別欠席問わず）した際の課題は、自分から問い合わせ、取り組むこと。教員から確認連絡はしない。 ※授業は備忘のためにTeams録画するが、ここにつなげたからといって「遠隔による出席」とすることはしない。 ※最終成績については、小数点以下を切り捨てる。極端なことをいえば、59.999点でも不合格とする。配慮はしない。 ※課題の提出が一切無かった場合、不合格とする。 ※本科目は学修単位（1単位）の授業であるため、履修時間は授業時間15時間と授業時間以外の学修（予習・復習、課題・テスト等のための学修）を併せて45時間である。自学自習の成果は課題によって評価する。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス、1年間の自己実現目標の再設定、「履歴書」作成演習		本講義の概要を理解し、自己実現目標を再設定できる。「履歴書」作成の方法と工夫を理解できる。		
		2週	4年次を迎えて意識すべきこと（専攻科生あるいは5年生による講話）※実施週の変更ありうる		上級生による講話を適切な姿勢で聞き、内容を十分理解し、自らの役に立てることができる。		
		3週	「自己アピール文」「志望動機」作成演習		「自己アピール文」「志望動機」作成の方法と工夫を理解できる。		
		4週	「敬語」「礼状」演習 ※電子メールの書き方含む		「敬語」の適切な用い方と誤用、「礼状」作成の方法と工夫について理解できる。		
		5週	「面接の在り方」ワークショップ①（「面接」とはどのようなものか、どのように対応するべきものなのかを検討する）		ワークショップの目的を適切に理解し、自らのコミュニケーション能力（人間力）を活用あるいは伸ばそうとすることができる。		
		6週	「面接の在り方」ワークショップ②（模擬面接）		ワークショップの目的を適切に理解し、自らのコミュニケーション能力（人間力）を活用あるいは伸ばそうとすることができる。		

		7週	年金に関する講演会（学生委員会主催）、社会人になるということ（講話） ※実施週の変更ありうる。または特別指導期間に実施する。	社会人として知っておくべき事項の一つである年金について理解することができる。
		8週	※前期中間試験は実施しない。 今年度の自己評価と反省、ポートフォリオファイルチェック、アンケート、年度末に開催される「合同企業説明会」について	自ら設定した目標に対し、妥当な自己評価ができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	前3,前4,前5,前6,前7,前9
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前16
				自らの考えで責任を持つものごとに取り組むことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前16
				目標の実現に向けて計画ができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前16
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前16
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前16
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	2	前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	前9,前10,前11,前12,前13,前14
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	前9,前10,前11,前12,前13,前14

			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	前9,前10,前11,前12,前13,前14
			法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14
			他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14
			自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前16
			その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前16
			キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前16
			これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前16
			企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前16
			企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前16
			企業には社会的責任があることを認識している。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前16
			企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前16
			調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前16

				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前16
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前16
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前16
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	

評価割合							
	試験	課題	発表（模擬面接）	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	80	10	0	10	0	100
基礎的能力	0	50	0	0	10	0	60
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	30	10	0	0	0	40